

大規模増殖場開発事業調査

(白糠地区)

(要 約)

小田切明久・大川 光則・佐藤 敦・鹿内 満春

白糠地区におけるアワビ大規模増殖場開発事業は、昭和56年度に調査が行なわれ、昭和57年度から事業が実施される計画になっている。

本調査では、海底形状及び底質分布等の漁場環境調査、底生生物分布状況調査、アワビについては成熟度及び成長等について調査を行ない、さらに施設調査においてアワビ等の蛸集状況、餌料海藻の着生状況について調査を実施した。

本調査に際して、種々御協力いただいた東通村役場、六ヶ所村役場及び白糠、泊の両漁業協同組合にお礼申し上げる。

尚、調査結果については別途報告するが、その概略は下記のとおりである。

- 1) 調査区域の海底地形、底質分布は、北部の老部川寄りでは全般にゆるやかな傾斜の砂地、中部は岩盤と砂、南部は起伏1m以上の岩礁地帯であり、砂は細粒砂、中粒砂が主体であった。
- 2) 白糠地先におけるエゾアワビの産卵期は成熟度指数からみて8月下旬から11月上旬までであった。
- 3) エゾアワビの年間成長量は、白糠、泊の両地先ともに4令までは10mmを越えるが、5令以降は10mm以下となり、特に6令以降では成長の鈍化がみられた。
- 4) 本地区のエゾアワビが漁獲制限殻長90mmに達するのは、白糠地先で約5.1令、泊地先で約5.0令であり、そのときの体重は、白糠地先で約106g、泊地先で約121gであった。
- 5) 本地区のエゾアワビの1㎡当りの生息数を水深別にみると、白糠、泊の両地先ともに水深5～10mで多い傾向がみられ、その生息数は白糠地先で1.88個(301g)、泊地先で2.80個(396g)であった。
- 6) キタムラサキウニの水深別1㎡当りの生息数は、白糠地先では水深が深くなるにつれて多い傾向がみられ、最高は水深20～25mにおける5.00個(614g)、泊地先では水深15mまでは同様な傾向がみられ、最高は水深10～15mにおける4.50個(360g)であった。
- 7) エゾバフンウニは水深10m以深では生息が見られず、その生息数の最高は泊地先の水深5～10mにおける2.00個(53g)であり、キタムラサキウニに較べて生息水深が浅く、生息数も少なかった。
- 8) 本地区においてアワビの漁獲は水深10m前後までの海域で行なわれているが、コンブ・ワカメを合計した着生量を水深10mまでの1㎡当りでみると、白糠、泊の両地先ともに約2,600gであった。
- 9) 昭和55年度に泊地先に造成した幼稚仔保育場においては3令以上のアワビの蛸集がみられ、又コンクリートブロックに着生した1年コンブの最大量は1㎡当り約10kgであった。

以上の結果から、本事業においては、本地区の水深5～10mにおける低利用の平盤に各種異型ブロックを配置した増殖場を造成し、アワビ放流種苗及び天然稚仔の保護・育成、餌料海藻の増殖によるアワビ稚貝の成長促進をはかり、アワビの再生産と漁獲の増大をねらいとした。